

第146回 ドキドキしながら観た 歌つて踊れる女性版ジャニーズ

昭和40年代、1月恒例の番組中、最も人気の高かったものにフジテレビ系『新春かくし芸大会』がありました。私が中学・高校の思春期を通じて、正月のひそかな楽しみとしていたのも同番組で、後半に登場する「洋舞コーナー」で、ザ・ピーナッツや

梓みちよ、園まりなどのお姉さんたちが網タイツ姿でラインダンスなどを披露する映像には、どきどきしつつ、なおかつ親に気取られないようにしながら、しっかりと見入っていたものでした。

かつてザ・ピーナッツが『ふりむかないで』の中で歌っていた「黒い靴下」や網タイツを偏愛するほど大人になっていたわけではありませんでしたが、ミニスカートが広く普及する前の時代、思春期少年ばかりでなく、酔い心地で正月気分浸っている男性にとっても幸せなひとときだったことでしょう。

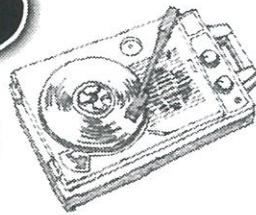
正月だけでなく、若い美女の脚線美を毎週お楽しみになれますよ、という発想から始まったのかどうかは

わかりませんが、昭和42年8月から日テレ系でスタートしたのが、音楽バラエティ『レ・ガールズ』。西野

名曲カルテ

昭和歌謡と いままで

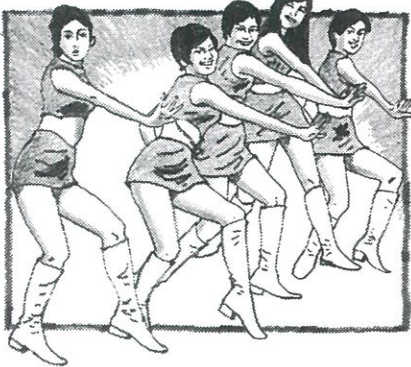
堀井六郎
絵・松本浦



バレエ団のエリート5人娘、金井克子、由美かおる、原田糸子、奈美悦子、江美早苗が、網タイツ&超ミニスカート&ブーツ姿で、スタジオ内を所狭しとばかりに歌い踊りまくっていました。

私としては、同じミニスカ&ブーツで比較すると、同時期に放送されていた『ビートポップス』のゴーゴーガール、小山ルミや杉本エマのほうに惹かれるものがありました。『レ・ガールズ』結成の2年ほど前の昭和40年3月、『ファースト・ラブ』（詞・永六輔、曲・いずみたく）という曲でキューティ・Qという女性グループがデビューしています。OSK（大阪松竹歌劇団）出身者を中心に結成、命名した永六輔によると、『Q』はカルテット（4人組）の『Q』だそうです。オリジナル曲以外に海外

のカバー曲も取り入れながら、歌って踊れるグループをめざしていたということは、当時、人気を博していた初代ジャニーズと共通し、彼らの女性版をめざしていたのかもしれない



ん。平成・令和の世を席卷する大人数で歌って踊る女性グループのルーツのひとつに彼女たちの存在がありました。

それから半世紀以上を経た昨年の大晦日、活動休止となった日の『NHK紅白歌合戦』で、嵐の松本潤が「嵐が去った後に虹の架かった美しい空が、みなさんの前に広がりますように」と、目を潤ませながら感動的な言葉を視聴者に投げかけてくれました。嵐のメンバーの目に熱いものを見た私は、そのときふと、かつてNHKの人気バラエティ『夢であいましょう』で初代ジャニーズが歌っていた彼らのデビュー曲『若い涙』（詞・永六輔、曲・中村八大）のメロディーが甦ってきました。

多くのジャニーズ事務所所属タレントの活躍ぶりを見るにつけ、そういえば、『新春かくし芸大会』で初代ジャニーズが出ていた記憶がないなあ、とナベプロ全盛だった往時をしのび隔世の感を抱いたのは、ジャニーズ草創期のバックボーンだった永六輔やジャニーズさんの思いに導かれていたのかもしれない。